

平成 29 年度 第 1 回市川市健康都市推進協議会会議録

1. 開催日時： 平成 29 年 8 月 21 日（月） 14 時 00 分～15 時 30 分

2. 会 場： 市川市役所 仮本庁舎 4 階 第 4 委員会室

3. 出席者（敬称略・五十音順）

【座 長】 藤澤 由美子

【委 員】 青山 真二、石井 広志、石黒 裕子、岩澤 秀明、大久保 とし子、栗岡 喬、
清水 輝和、高橋 勲、滝沢 昌次、寺澤 千恵子、美細津 明久

【市川市】 田中保健部長、鹿倉保健部次長、岩井保健医療課長、他担当職員 4 名

【傍聴者】 0 名

4. 次 第

開 会

1. 挨拶

2. 委員自己紹介

3. 議 事

(1) 健康いちかわ 21（第 2 次）の進捗状況について

1. 健康いちかわ 21（第 2 次）について

2. e-モニターアンケート結果報告

3. 庁内プロジェクト会議

(2) 第 13 回健康都市連合日本支部大会報告

4. 事務連絡

閉 会

5. 配布資料

資料 1： 平成 29 年度市川市健康都市推進協議会 委員名簿

資料 2： e-モニターアンケート結果報告

資料 3： 市川市健康都市推進協議会の運営に関する要綱

資料 4： 第 13 回健康都市連合日本支部大会チラシ

資料 5： 市川市健康都市推進講座チラシ

資料 6： ヘルシーパートナーズ事業 健康絵手紙コンテスト チラシ

資料 7： いちかわ健康マイレージリーフレット

【事務局】

平成 29 年度第 1 回健康都市推進協議会を開催します。

「市川市民生委員児童委員協議会」 「後藤 久子」 委員

「市川市教育委員会」 「後関 典子」 委員

からは欠席のご連絡をいただいています。

1. 挨拶

【田中保健部長】

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。また、日頃より、健康都市推進事業について、ご理解ご協力ありがとうございます。

市川市では、健康都市の推進を、これまでの国内外への情報発信から、地域への発信にシフトし、特に昨年度からは、市川市の健康増進計画である「健康いちかわ 21（第 2 次）」を推進し、市民の健康づくりに重点を置いた取り組みをしています。昨年度は計画期間の初年度ということもあり、広報いちかわ等により市民の皆さんに広く周知するとともに、進捗管理の方法について検討してきました。

後ほど内容については、事務局より説明がありますが、関連部署の担当者が集まる庁内プロジェクト会議とこの協議会で連携を図りながら進捗管理を行ってまいりたいと考えています。

また、本協議会については、当面の間、「健康いちかわ 21（第 2 次）」の推進を中心に「体と心」における人の健康づくりに取り組んでまいりますので、今年度よりご出席いただく委員の皆さまも、「健康いちかわ 21（第 2 次）」に関連する分野の団体よりご推薦をいただいています。

本日は、委員の皆さんよりいただいた意見を庁内プロジェクト会議にフィードバックするとともに、各団体への活動に反映していただければと思います。今後ともご協力をどうぞよろしくお願い致します。

【岩井保健医療課長】

座長は、藤澤委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。（異議なし）

2. 委員自己紹介

3. 議事

【座長】

それでは、事務局から会議録の公開について説明をお願いします。

【岩井保健医療課長】

会議録は、実名入りで市のホームページに公開します。また、会議の開催状況を、ホームページや市の刊行物等で公開するため、写真を撮影させていただきたいと思います。

【座長】

会議録をホームページで公開すること、実名入りの会議録にすること、各種紹介用に写真を撮影することについて、承認を求めます。（一同承認）

(1) 健康いちかわ21(第2次)進捗状況報告

【座長】

議事(1)「健康いちかわ21(第2次)の進捗状況について」の1.「健康いちかわ21(第2次)」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

はじめに、「健康いちかわ21(第2次)」について説明いたします。

昨年度から、本協議会においては、健康都市推進に関して、平成28年3月に策定しました「市川市健康増進計画 健康いちかわ21(第2次)」の推進について委員の皆様からご意見をいただき、計画を進めているところです。今年度、新たに委員になられた方もいますので、簡単に本計画について説明をさせていただきます。

① 健康増進計画健康いちかわ21(第2次)について策定の背景

国内の高齢化率は内閣府の「平成27年版高齢社会白書」によると平成37年に30.3%に達すると見込まれています。本市でも、平成28年12月現在で20.6%、第2次計画終了時の平成37年には25.5%に達すると予想されており、医療費や社会保障費が増大することが懸念されます。

また要支援・要介護認定者数の割合である要介護認定率も、高齢者の増加とともに増えH37年には23%に達すると予想され約4人に1人が要支援・要介護者となる見込みです。

このような状況の中で、市民一人ひとりが健康で長生きするためには、市民自らが日頃から健康に関心を持ち、生活習慣を整え、健康寿命を延ばしていくことが大切です。

② 健康いちかわ21(第2次)の策定

以上のような背景をふまえ、本市では、国が策定している「健康日本21(第2次)」、県が策定している「健康ちば21(第2次)」の考え方をもとにした、市川市独自の計画として「健康いちかわ21(第2次)」を策定し、推進しています。昨年度より周知のため、概要版を市民や関係団体、その他庁内・庁外関係機関に広く配布しています。

③ 健康都市いちかわとの関係

平成16年11月にWHO憲章の精神を尊重した「健康都市いちかわ宣言」を行い、これまでこの協議会において健康都市推進にむけ、様々な協議を行ってきたところですが、「健康いちかわ21(第2次)」にあわせて、本協議会においても、健康都市の中心分野であります「人の健康づくり」に主眼をおいた、「誰もが健康なまち」を目指していきたくと考えています。

④ 本計画の考え方

「健康いちかわ21(第2次)」は、生活習慣及び社会環境の改善を通じて、市民が自ら健康づくりを推進するための行動計画となっており、市民一人ひとりが健康な生活を送るためには、市民自らが健康づくりに取り組む必要があります。その「個人の健康づくり」を支えるのが「家族」や「地域社会」であり、「行政」は「健康づくりを支援するための取り組み」を展開していく役割を担っています。

このように、市民・地域・行政が協働して取り組むことで、基本目標である「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を図り、「誰もが健康なまちいちかわ」の実現を図っていきます。

⑤ 健康寿命とは

次に基本目標のひとつである健康寿命の延伸についてですが、「健康寿命」とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されており、算出方法はいくつかありますが、本計画では、市町村で算出する方法を用いており、「人口」、「死亡数」、「介護保険の要介護認定者数」（介護保険の要介護 2 以上を不健康な状態、それ以外を健康な状態とします）を元に算出しています。

つまり、健康寿命を延伸するためには、死亡率や要介護の原因となる生活習慣を改善することにより、病気にならず、介護を必要とせず、いつまでも健康で長生きできる市民の割合を増やすことが必要です。

⑥ 健康格差対策の 3 段階

次に、もうひとつの基本目標である「健康格差」についてご説明します。

健康格差とは、住んでいる地域や、所得、学歴、職業など、個人がおかれた社会的な背景により、健康状態が異なること、またはその程度を意味します。健康格差は全ての社会階層で見られるものですが、貧困や低学歴、職業的な地位が低いなど、社会階層の低い人のほうが、健康状態が悪くなりやすいといわれています。厚生労働省「国民健康栄養調査」からも、所得が低いほど、健診未受診率や肥満率が高く、野菜摂取量が低いなど、悪い生活習慣を送っていることがわかっています。そうした様々な課題がある健康格差に取り組むためには、段階に応じた取り組みが必要です。

まず、第 1 段階としては、課題に取り組む関係機関が「健康格差とは何なのか」を理解し、健康格差を縮小するための理念や情報・課題を共有することが必要です。

健康格差について共有することができたら、次は、その格差に配慮した対策を実施することが必要となります。健康格差には、ライフステージにおける特有の要因が影響するといわれています。

例えば、子供時代に悪い生活習慣を経験していると、大人になってからも悪い生活習慣が日常化してしまうといわれています。その連鎖を防ぐためには、子供時代から良い生活習慣を定着化することが必要であるというようなことです。また、要因が発生する前のライフステージに着目していくという視点も必要です。

そうした、ライフステージや健康格差の実態に応じた対策に取り組み、PDCA サイクルを用いて、客観的指標から評価・改善していきます。また、健康格差は行政だけでなく、住民活動や各団体等が、それぞれの得意分野で、健康格差を縮小していく「地域ぐるみの健康づくり」を実践することが必要です。そのため、本協議会とも連携し、この地域ぐるみの健康づくりについて考えていきたいと思えます。

⑦ 目標を達成するためのキーポイント

次に目標を達成するためのキーポイントとなる「健康無関心層」についてご説明します。

「健康無関心層」とは、健康づくりに無関心な方で、実際に不健康な健康行動をとっている人の

ことを言います。例えば、「健康に関心がないので、食事内容に気を配らず、好きなものばかり食べている」また、「体調は問題ないから・・・と健診などを受けようとししない」等です。このような人は、健康リスクが高い人と思われれます。

また、本計画策定時に行った市川市基礎調査の中で、「運動習慣があるかどうか」を聞いたところ、定期的な運動に取り組んでいる市民は約 2 割で、定期的にはできていない市民が約 2 割、残りの約 6 割は運動習慣がないという結果が出ています。

既に運動に取り組んでいる 2 割の市民は、健康意識が高いため、健康度も比較的高いといえ、行政が行う健康づくり事業に積極的に参加している方々と考えられます。残りの 6 割の運動しない市民に、取り組まない理由を聞いたところ、「やめてしまった」「取り組むつもりがない」等となっており、このような人は、「健康無関心層」と考えられます。

誰もが健康なまちづくりを実現するためには、現在健康づくりに取り組んでいる市民だけでなく、健康に無関心な市民へもアプローチし、健康無関心層の割合を減らす取り組みが鍵となります。

⑧ 計画の推進体制

次に、計画の推進体制と本協議会についての位置づけですが、本計画を市民・地域・行政が協働して取り組み・推進していく体制として、庁内では、「人の健康づくり」に関連する部署で、庁内推進部会を設置するとともに、庁内推進部会の中にプロジェクト会議を立ち上げ、各課の担当者が共通の視点を持ち、共通の課題に取り組むことで、関連部署間の連携を図っていきます。

また、本計画の推進にあたり、庁外関係機関である本協議会とは、市民・地域へ広く周知を行っていただくことや、課題解決のために地域で実践できること、また行政への要望について等、意見交換を行うことで、連携を図り、計画を推進していきます。

⑨ 計画の進捗管理：各課事業

次に、「具体的な取り組み」についての進捗管理についてですが、計画を推進する上で「具体的な取り組み」となる関連部署の事業については、共通の視点を持ち、課題に合わせた事業を実施できているかどうかを、PDCA サイクルで管理していきます。PDCA サイクルについては、庁内推進部会・プロジェクト会議の中だけでなく、健康都市推進協議会でも評価していく予定です。

⑩ 計画の進捗管理：全体

計画全体の進捗管理及び評価ですが、基本目標となる「健康寿命の延伸」は、成果として現れるには時間が必要であり、また「健康格差」は数値として現れにくいいため、計画の進捗状況については、いくつかの指標を用いて評価していきます。毎年度の評価としては、e-モニター制度等を利用し、市民の健康意識等を指標として、市民の行動変容につながっているかを確認していきます。

中間年度となる平成 32 年度には、前期計画期間の取り組みを評価するため、市民の健康状態を客観的に確認するアンケート調査を行い、データを分析し、後期の取り組みにつなげていきます。最終年度となる平成 37 年度には、これらに加え、健康寿命を算出し、延伸できたかどうかを評価

します。

【座長】

「健康いちかわ21（第2次）」の概要と推進体制について説明がありましたが、今の説明について、質問はありますか。

【青山委員】

健康無関心層について、不健康な健康行動をとっている人とありましたが、不健康な行動と不健康な健康行動の違いは、健康を意識しているが間違った解釈で健康行動をしているということでしょうか。

【事務局】

そうです。

【清水委員】

医師会、歯科医師会の方がいらしているので伺います。1年前に目の病気を患い、70歳で初めて手術・入院をしました。スポーツをしている関係で、自分は健康だと思っていたが、担当医に目の病気の原因を聞いたところ、加齢によるものだと言われました。原因を加齢で片づけてよいものかと思うのですが、いかがでしょうか。

【岩澤委員】

目の病気に関して医学的にはきちんとした原因はあると思われませんが、簡単に言えば加齢による変化ということだと思います。もっと言えば、加齢があるから疾患があると捉えていただければいいと思います。

【清水委員】

食事制限とスポーツをするように言われました。

【岩澤委員】

一般論として、何事もやりすぎ・やらなさすぎは良くないので、いい塩梅にやっていただければと思いますが、何のご病気かわかりかねますので詳しくは担当医と良くご相談ください。

【座長】

年齢が高い方が増えてくるという現状があるので、どうしても病気がちになります。できるだけ元気で長生きできるようにするための対策として、「健康いちかわ21（第2次）」が策定されています。そういった現状を何とかしていこうというのが今回の計画であると思います。

【石井委員】

基本的に加齢と言われてしまうということですが、昔は60歳になれば入れ歯が当たり前でした。8020運動を始めた時は、80歳で20本の歯を持つことは考えられないと言われていましたが、80歳で20本の歯を持つ方は5割を超えています。

加齢という言葉は非常に難しい。アンチエイジングという言葉があるが、いわゆる、あがなうで、

健康という言葉にはつながらないのかと思います。

昔は人生 50 年と言われていたが、80 年生きて当たり前という時代になりました。この 30 年のギャップをどうやって健康でいるかということが、これからのテーマであると思います。

加齢という部分を高齢者時代の中でどうやって対応していくのか、医師会・歯科医師会・薬剤師会を含め、我々三師会と共に皆さんと一緒に対応していかなければならないと思いますので、そういった点で意見が出てくれればいいかなと思います。

【滝沢委員】

保健医療課にお聞きいたします。市川市は人口が若干増加してきています。東日本大震災から人口増加がマイナス傾向にあったと思いますが、6 年が経過して、3 年あたりから増加傾向に入っています。今現在の統計を見ると、毎月 200 人程増加していると伺いました。

今後、48 万の人口であるのが、このままのペースで行くと 2 年後ぐらいには 50 万を超えるのではないかと思います。行政側のある部からは「そこまでいかない」という見解を持っていると回答をいただきました。

そこで、保健部として「人口増加の動向がどう推移しているのか」について伺いたいと思います。

【岩井保健医療課長】

人口は増加しています。増えている原因としては、出生や死亡の自然の増が増えています。

結論から言いますと、人口増加は一過性のものであり、そのまま続くとは考えていません。

引越して転入・転出があり、その人口移動が、バブル崩壊や東日本大震災で減少にありましたが、平成 26 年あたりから徐々に増え始め、昨年 48 万人を越え、今も少しずつ増えています。一番の要因としては住宅事情ではないかと考えています。

地価が安くなれば住宅を購入するということが考えられますが、市川市は地価がまだ高いです。船橋市や習志野市になると安くなっているようで、統計でも住宅の着工率が高いと出ています。そのため、そちらの方で家を買って、定住していくというのが見られます。

市川市は、「若年層が地方から出てきて、市川市で賃貸に住み、東京に勤める」という特徴があります。そして、結婚して子供が生まれることで、広い家に住もうと考え、地価の安い船橋市や松戸市、習志野市に引っ越す方が多いのかと思います。

市川市も今は人口が増えていますが、増えている要因が本八幡の開発されたマンションや、新築住宅の増加であると考えますので、土地事情などからどこかで頭打ちになると思われます。

これらを総合的に考えると、人口増加は一時的なものであり、今後の人口は本市が予測しているものに近づいていくと思います

保健部としては、子育て世代の包括支援としてアイティを開設し、妊婦の方の相談や、乳幼児の健康診査や予防接種についての案内や相談など、なるべく市川市に留まってもらえるような事業を行っています。

【座長】

人口構造と変化は将来的には予測通りになるであろうということです。

次に2.「e-モニターアンケート結果報告」について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

(資料2：e-モニターアンケート結果報告を参照)

本アンケートは健康増進計画「健康いちかわ21(第2次)」の評価をするため、実施します。

アンケートは、評価指標となる、市民の健康状態や健康づくりの行動について、「食」「運動」「生活習慣」について伺っています。

アンケート項目は、基礎情報5項目・食に関すること3項目・運動に関すること2項目・生活習慣に関すること5項目の全15項目です。

① 結果報告 (1 ページ)

基礎情報、Q1(年代)・Q2(性別)をご覧ください。

アンケート回答者の男女比を見ると、男性が若干多くなっています。年代は40~50代の方が多く回答しています。年齢により回答数に幅があり、特に10代、20代については回答に偏りがあります。

② 結果報告 (1 ページ)

次に、Q5(過去1ヶ月間の健康状態はいかがでしたか)をご覧ください。

これについて、「とても良い」「まあまあ良い」と回答した方が、合わせて72%と7割以上の方が、「健康状態が概ね良かった」と感じています。

③ 結果報告 (2 ページ)

次にQ6(1週間に何日朝食をとるか)・Q7(主食・主菜・副菜の3つがそろった食事を2食以上とる回数)・Q8(一日の野菜の摂取量)をご覧ください。

朝食は85%の方が、「ほとんど毎日とる」と回答していますが、「バランスのとれた食事をとる頻度」は58%と、低くなる傾向がありました。

また、男女ともに20代から40代の半数以上の方が、朝食を毎日とっていませんでした。「1日あたりの野菜摂取量」については、1日の目標量となる350gとれていると回答した方は、わずか3%でした。

この結果から、バランスの良い食事や野菜摂取について周知の必要があると感じました。

④ 結果報告 (3 ページ)

次にQ9(1日30分以上かつ週2回以上の運動を1年以上継続しているか)をご覧ください。

「1年以上運動を継続している」と回答した方が34%いる一方で、「運動したいができていない」「運動しようと思わない」と回答した方が合わせて41%でした。また、男女ともに30代から50代で、1年以上一日30分以上かつ週2回以上継続して運動している方が少なかったです。

この結果から、運動できていない方にも興味を持ってもらえるよう働きかけが必要だと感じました。

⑤ 結果報告 (3 ページ)

Q11 (睡眠について) をご覧ください。

「十分とれている」「まあまあとれている」と回答した方は合わせて 71%でしたが、「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した方は合わせて 28%と、約 3 割の方が睡眠を十分にとれていませんでした。

⑥ 結果報告 (4 ページ)

アンケートの最後に、本市の健康づくり施策についてのご意見を自由記載でいただきました。回答は全部で 206 件いただいています。この中からいくつか抜粋して報告させていただきます。

- ・年齢の幅があり、市の施策作り大変だと思う、自助努力の啓発ができるといい。
- ・若い世代がもっと気軽に参加できるものがあると嬉しい。
- ・健康体操など、定期的なイベントを公園や学校の体育館などで実施してほしい。
- ・エコボカードを健康づくり施策に活用してほしい。
- ・医療費が高いことや暇がないなどの理由で病院に行かないという人でも気軽に頼れる場所がほしい。
- ・市川市の健康健診受診期間をもう少し延ばしてほしい。
- ・歯科検診の頻度を多くしてほしい。
- ・毎年来る健診の中に歯科検診も加えてほしい。
- ・健診（検診）も子連れで受けられるといい。
- ・地域で、自分たちで健康づくりができるような指導者研修をしてくれれば、地域での健康づくりができる。

などたくさんのご意見をいただきました。

これらの結果やご意見をふまえ、市民の健康づくりのための課題解決に向けて、庁内推進部会や庁内プロジェクト会議、そして本協議会で連携を取り、健康いちかわ 21（第 2 次）を推進していきたいと思います。

【座長】

今の説明について、質問や意見はありますか。

【高橋委員】

スポーツ推進委員では、市内で運動をしない人に軽スポーツをやらせてもらおうと活動しています。長生きしてもらうということが目的ではなく、健康のためにやっています。

運動しない人は運動をすれば、達成感といったものがあります。ここ（資料 2、3 ページ、Q9）に週 2 日運動するしないということが書かれていますが、運動するよりも普通に食事をとり、頭の中が健康であるほうが市川市民として楽しいのではないかと思います。

税金が安くなれば、税金をたくさん払っている人は心の健康を取り戻すとか、そういう意味でスポーツは何かしらの意味を持つと考えています。しかし、スポーツばかりが健康かという、笑いであったり、文化であったりそういったことが健康に心理的に左右するのではと思います。

スポーツもプロスポーツみたいなものではなくて、「楽しい」のレベルで軽スポーツを優先してやっています。

また、なぜスポーツができないのかという心の面も考えています。現在、障害者の方の手伝いもしていますが、障害者の方でもスポーツが好きな人は色々なことをやっているというのがわかりました。

スポーツ推進委員は平日にあまり活動ができませんが、地区によっては週1回体育館を借りている市民の方にスポーツをしてもらっています。

【座長】

運動するという聞き方は、国の調査と同じ聞き方をしています。

ある程度、具体的に頻度と時間を決めない限りアンケートは難しいが答えにくくなってしまい、まとまらなくなってしまうので、同じ聞き方をしていると思います。

心の健康も大事であるし、体を動かすことの指標など様々あると思いますが、個々ではこういった聞き方をしているのだと思います。

モニターの方はどうやって選ばれたのですか。

【事務局】

e-モニター制度に登録している方で、この登録をされている方にアンケートが送られ、それに答えてくれた方々です。

【石井委員】

ある程度、意識の高い方ということですか。

【事務局】

そうです。

年齢層はe-モニター制度に登録されている方で、40代から50代くらいの方が多く、かつ、健康のことに答えてみようと考えた方が答えてくれました。

【座長】

なかなか難しいですが、評価の時にはそのあたりも考慮して評価していただければと思います。

【石井委員】

口頭で事務局より報告のあった自由記載の中に、歯科健診についての意見もありますが、この歯科健診を定期的に受けていると回答した37%（資料4ページ、Q15）というのは一般に歯科医のところに行き、年に何回か見てもらっているという意味だだと思いますので、若干数値の違いというのがあります。

市の健診である歯周疾患健診に関しては20%をきっています。受診率が3割を超えていないとされている、胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮がん検診は、市の検診を指しています。(資料4ページ、Q15) 実際には胃がん・肺がんと共に19%をきっていたと思います。

ただ、市川市はそれでも歯周疾患健診に関しては受診率が高いです。他の県内の郡市でも1割をきるところが多いです。

歯科に関しては10年に1回の節目健診となっています。その機会を増やしてほしいということですが、全国から見ても毎年やっているというところはかなり少なく、5年に1回というところが最近増えてきていますが、10年に1回という市川市と同じパターンが多いですが、これでは足りないだろうと歯科医師会でも認識しています。

特に、一般的に健康な方以上に、障害者の方向けに検診(健診)をもっとやらなければいけないという認識をかなり持っています。

また、年齢も30歳、40歳、50歳、60歳、70歳が対象ですが、60歳の次が70歳ではなく、65歳での健診もしてほしいという話も出ています。

そういったところも行政の方にも考えていただけたらと思います。また、障害者の方に対しては、細かいケアが必要かなと歯科医師会でも考えていて、何らかの対策はしていこうと考えている最中です。

【座長】

それでは、次に3.「庁内プロジェクト会議」について事務局より説明をお願いします。

【事務局】

第2回目は、6月2日に実施しました。

2回目の会議となりましたが、年度が変わり、会議のメンバーも変わったため、再度、健康いちかわ21(第2次)推進のための共通の視点について説明するとともに各課の事業の課題について情報交換・意見交換を行いました。

また、平成28年度に各課の協力・連携で広く市民に周知が行えた保健医療課の「健康マイレージ事業」について、実績例として報告しました。この事業についての協力・連携を具体的に説明しますと、健康マイレージ事業の周知方法として、健康支援課の健康づくり講座でのチラシ配布、疾病予防課の特定健診受診券送付通知、国民健康保険課の納税知書送付封筒、本年4月8日、9日に実施されたスポーツ課のツーデーマーチの冊子等に広告の掲載ができ、担当課を含む5課が協力・連携し、事業の周知を図ることができました。

このような事例が増え、各課が連携・協力できるよう今後も進めていきます。

【座長】

それでは、各団体から順番に、団体紹介を含めて、健康無関心層や地域ぐるみの健康づくりについて意見を伺います。

【岩澤委員】

医師会としては、健康寿命の延伸ということと、健康格差の改善について、検診の受診率を増やすよう、市の担当者と委員会を通して検討しているところです。

受診率は2~3割しかありませんが、市内でも地域によって事情が異なっていて、ある地域とある地域は低いですが、同じ低い中でも受診している年齢層が違っていたり、それぞれ地域特性や年齢構成によって事情が異なることがあり、対応していくことはなかなか容易ではないと考えています。

その中でも、国の方から検診の受診率の向上や検診内容の評価への指針があり、来年度に向けて市の方と委員会を通して、各種がん検診、主なものとしては胃がんや子宮がん、肺がんの内容について今検討しているところです。

健康無関心層、そのうち受診したくても何らかの事情があって受診できない方に対しては自治会や地域に根ざした組織の協力を得て、受診率の向上、健康格差の改善を目指していただければありがたいと考えます。

庁内プロジェクト会議ということで、横のつながりをきちんとやっていただくとスムーズに事が進められて非常に良いと思うので、いいプロジェクトが出来たと考えます。

【石井委員】

検診（健診）は実際には全国2割を超えれば良いという雰囲気があります。おそらく行政の検診（健診）に関しての予算立ては2割から始めていると思います。

市川市から口腔がん検診を始め、これを成功させるため、コミュニティーバスに広告を掲載し、その中でも各種健診を受けようと口腔がん検診だけでなく、はたちの検診も含めて、ポスターを出したり、どういう検診があるのかという冊子を作ったり、皆さんへの周知をしています。

検診だけでなく、歯科医のところに来ていただかないと困るのですが、家族の介護の手間がかかってしまい、医療機関にかかれないうことがあっても感じています。実際に治療途中に来られなくなり、久しぶりに来た時に親や旦那の介護で来られなかったという方が多いです。

先日、医師会館の方で、グループワークを行いました。いかに介護者の負担を軽くしてあげることができるのかというところが、その中でも問題になってきています。歯科医師会以上に横のつながりを持って、健康に意識はあるのだけれど動けない人たちを助けていかないといけないので、庁内会議の中で集まっていたところ以上にもっと横のつながりそして、連携だけでなく連帯をしていかないといけないかと思っておりますので、もっとつながりが出来れば良いなと思っております。

【寺澤委員】

今までは体力測定などのイベントをしていましたが、それをすると自信のある方だけが来るので、これではいけないと思い、視点を変え、これからはもっと底辺に根付いてということで、病院にいけない、忙しい、時間内に受診できないという方のために、薬局で薬剤師が高齢者から子どもまでの意見を聞きすくい上げ、病院や、市の相談窓口案内をする運動に切り替えています。

また、薬剤師自身も講演会を聞きに行くなどの勉強をしています。

【美細津委員】

計画を拝見し、健康センターとして取り組んでいるものも入っています。

計画の推進体制の中で、計画の関係機関との連携の役割の中に県も入ってくるとは思いますが、なかなか県から各個人に直接アプローチということは難しいかと思うので、各個人へのアプローチは市が中心になるのかなと思っています。

個人個人にアプローチをするのは難しいかなと思いますので、自治会単位や学校など、皆さんが参加するようなそういう仕組み作りができればいいかなと思います。

【栗岡委員】

昨年度は地域別に3つのグループに分かれて活動していましたが、今年からは活動範囲を広げ、NPO法人からの協力をいただき、活動を進めています。

毎月行っていた研修会も市が中心となり行っていましたが、半分の6回は独自でやろうということで進めています。

今現在、推進員103名いますが、常時参加するのは40名程で、今までのやり方では行動範囲が狭いものでした。そこで、今年はイベントの範囲を広げ、健康絵手紙コンテストなどを主催し、進めています。また、市民まつりに向けて準備を進めています。

また、NPO法人の方から協力をいただき、大麦についての研修会を行い、それを地域に広め、市民の健康づくりを進めていきたいと思っています。

無関心の方にどうしていかが一番大切だと思っています。

高齢者の方は年に1回、定期健診があります。定期健診にも来られない方については、何かしらの指導があってもいいのかなと思います。そういった方が健康を維持できないことがあるので、無関心の方に自治会などと連絡を取り合いながら、声をかけていきたいと思っています。

個人情報等で難しいこともあると思うが、独り暮らしの方を考えると多少のことであっても声をかけ、参加してもらうことが大切だと思います。

そういった意味で、今年度は、地域に根ざして活動をしていきたいと思っています。

【大久保委員】

保健推進員120名体制で、3か月になる赤ちゃんの家庭訪問や4か月赤ちゃん講座での保育協力を通して、育児や家庭の健康について相談や窓口の紹介をし、少しでも健康に関心を持ってもらえるように努力していきたいと思っています。

【石黒委員】

市民に食生活の大切さを伝え、健康への意識を高めていただくために、市川市から62名委嘱され、食による健康づくり活動を進めています。

主な活動については大人の食育講習会、ヘルスメイトクッキングがあります。食生活改善推進員は、ヘルスメイトといい、講習会のネーミングにも使っています。

内容は健康づくりに関する話と調理実習です。今年度は市川市の特定健診の項目にも加わった尿酸値について勉強会を開きました。若いうちから健康に取り組んでほしいと「30代から始める尿酸値をあげない健康ごはん」というテーマで料理講習会を開きました。市内11か所で開催し、200名以上の方が参加しました。

また、食生活改善推進協議会では、「朝ご飯をとること」を進めています。小学生でも朝ご飯を食べずに登校するというのを聞いたので、講習会に来てくれている方には早寝・早起き・朝ご飯、薄味になれる、ダイエットを無理しない等、「健康いちかわ21（第2次）」の中にあるライフステージ別の取り組みの目標で、栄養と食生活というところの目標を参加者には話をしています。

【青山委員】

私たちの団体は健康を軸に活動している団体ではなく、情報をキーワードにして活動しているNPO団体です。

e-モニターアンケートは健康をテーマにアンケートに答えた人ということでしたので、健康への意識が高い人だと思います。

意識が高い人方も、飲みすぎている、たばこを吸っているという人もいるわけなので、アンケートによって、関心はあるが行動が伴っていないという人たちが、顕在化したと思います。

意識の低い方々を起こすのは、一人ひとりを説得することはできないので、点の集まりが線になり、面となるようなムーブメントを起こし、皆さんを引っ張っていかないといけないと思います。私たちはそういった情報提供をしているところです。

日本人は隣の人やがやっていたらやらないと感ずる性格を持っているので、健康に関心を持っている方々、実際に活動している方々の接点を設けるのがいいと思います。そのために、私たちの団体は情報を活用しています。

私たちが市川市と協働しているタウンマネジメントオフィサー（TMO）というのがありますが、個々では健康に関するテーマや思考を持って参加する方が多いです。

実例を挙げると、健康体操をつくってPR活動をしている人や、麴を使ったお弁当を使い、健康食を広めたいということで活動している人がいます。

場を作ったり、関係を作ることをコアとして、そこからどうやって広めていくかということ、地道に意識のないところから入っていったり、味などの感覚などの楽しみから入り、個々からアプローチをすることが大切だと思います。

注目を浴び、注目を浴びることで、私も行ってみようかなと思うようになります。

3対4対3のサシミの法則というのがあります。3は関心があり、3は関心がない、あとの真ん中の4をどうやって引っ張っていくかということでもいつも活動しています。

効率よく動くためにもムーブメントを起こしていく情報を提供し、引き続き、場づくりや関係づくりをTMOを通して今後も提供していこうと思います。

【清水委員】

現在約 36 団体が加盟し、活動しています。スポーツは勝たなければならないということで、評価の基準が郡市対抗の県民体育大会というものが秋にあり、市川市のレベルをあげようと取り組んでいます。

スポーツをやるからには心と体の健康が大事であるということを加盟団体に伝えていきます。リオデジャネイロオリンピックの団長であった橋本聖子氏が帰国した時に、「日本のスポーツ選手はどこへ出しても恥ずかしくないきちんとした心と体を持った選手です」という主旨の事を言っていました。

是非そういったことを市川にも広めて、心と体の健康なスポーツ選手を育てていきたいと思いません。それには厳しい練習に耐えて、色々なことに耐えられる忍耐力を育てなければならないので、そのように指導していただくように各団体等に依頼しているところです。

【高橋委員】

健診は会社で行っています。市川市は勤労者が多いかと思いますが、そういった方たちは会社や組織で健診をやっていると思うが、それに漏れてしまった方が、健診に無関心な方だと思いません。スポーツをしに来る人は健診を受けている人たちだと思いません。

スポーツ推進委員は 92 人いるが、無関心な方たちに対して何かするという事は、仕事を持ちながらボランティア活動をしている組織なのでなかなか難しいところです。今来ている人たちをいかに減らさないか、来ている方の家族の参加者を増やしていきたいと思いません。

【滝沢委員】

自治会会員未加入者に対して、加入していただけるように活動しています。これが自治会連合の重点目標です。

なぜ未加入者対策をやっているかという、加入率が低くなるといういろんな面で、広報や周知が出来ず、知らなかったということが起こります。市内の加入率は 56%セントぐらいです。歴史ある町内会は 80~90%ぐらいありますが、新開発地のところでは加入率が 20%前後まで落ち込んでいる状況です。地域格差が生まれてしまいます。

健診についても自治会単位でお願いできればということがありましたが加入率が低いと、それも全員とはいかなくなります。町内会の方だと自営業者の方もいて忙しく、一日で済ますために病院に行き人間ドックを受けて、健康に対しての心遣いはしていると思いません。そういった方もいるということに着目して調査していただくことも検討していただければ、データが取れると思いません。

市川市では空き家が相当発生しています。今年度から市川市でも重要課題とし始めたと思いません。今後若い方たちの他市への流入を防ぐためにどうしたらよいか考えてほしいと思いません。

住んでみたい永住したいという環境づくりができればいいと思いません。

【座長】

それぞれ、団体の紹介を含め、無関心層にどう働きかけていくか、意見をいただきました。全体をまとめると、無関心層対策のために新しく組織を作るのは難しいので既存の団体等を利用して、効果的に連携・連帯をしつつ、活動を広めていくことが必要だと思います。

広報活動を通じ、皆さんが情報を得ることが非常に重要です。各団体が積極的にイベントを開催して無関心層の人たちを集めるということだけではなく、忙しくても絶対に行くという集まりのところに周知したいものを持って、来るのを待つのではなく行くといと思います。

また、各種手続きに関しては、書類等複雑でわかりにくく、介護など、老老介護ではとてもできないと思います。制度的なこともあります。ITが進化し、高齢者でもインターネットを活用する人が増えており、書式の記入や市役所に行かなくても相談ができる体制づくりも必要ではないかと思えます。

今は誰もがスマホを利用し情報を入手していると思うので、それを活用した、情報の提供があればいいと思います。

庁内プロジェクト会議での協力体制はとてもすばらしいと思うので、今後はこのような連携をもっと推進していくことが効果的だと思います。

次に、議事(2)「第13回健康都市連合日本支部大会報告」について事務局からお願いします。

(2) 第13回健康都市連合日本支部大会報告

【事務局】

平成29年7月4日(火)、5日(水)の2日間にかけて北海道の網走市にて開催されました、健康都市連合日本支部総会・大会に出席してきましたので、報告します。

① 健康都市連合日本支部について

健康都市連合日本支部は、2005年、千葉県市川市、愛知県尾張旭市、沖縄県平良市(現・宮古島市)、静岡県袋井市が発起人となり、日本国内において健康都市に関する情報を共有し、健康都市のネットワークを構築することを目的として設立されました。

その設立首長会議は、健康都市連合設立以来の理事都市である平良市(現・宮古島市)で開催されました。現在、支部の会員市は37市4団体を数え、大きな広がりになっています。

日本支部では、規約に基づき、通常総会を年1回開催しています。それに合わせて、大会が開催され、加盟自治体や団体同士が情報交換や交流を行います。

② 日本支部総会概要

1日目は健康都市連合日本支部総会が行われました。議事は平成28年度事業報告や平成29年度事業計画など、ご覧の6点であり、次回の総会及び大会の開催地が、千葉県松戸市に決定しました。

韓国支部との交流についてなど協議が行われたあと、健康都市連合 中村桂子(ナカムラ ケイコ)事務局長から、貧困の撲滅やジェンダーの平等、環境問題やグローバル化に伴う問題などが盛

り込まれた、環境と開発問題に関する世界目標である、持続可能な開発目標（SDGs）についてお話がありました。

③ 日本支部大会概要

大会は7月4日（火）の総会後と5日（水）の2日間にわたり開催されました。

大会には、全国から27都市の市長や副市長、担当者の方をはじめ、市民や健康都市に関する活動を行っている団体や企業の方等、約150名が参加されました。

大会は、開催市の水谷市長の挨拶から始まり、その後、学校法人日本体育大学常務理事 今村 裕（イマムラ ヒロシ）氏から「健康と心のバリアフリー」という題目で、インクルーシブ教育システムの理念に基づき、網走市に開校した国内初のスポーツ教育を主軸とする「日本大学付属高等支援学校」についての講演がありました。

本学は「スポーツ教育」を主軸に、「労作教育」「情操教育」の3本を柱とした教育を行っています。スポーツ主軸ではありますが、トップアスリートの育成が第一目標ではなく、スポーツを通じて健康な身体を育み、ルールやマナーを遵守することを学び、労作教育や情操教育を通じて卒業後に社会参加できる基礎を身に付けます。

基調講演の後、特別協賛企業である「株式会社 はくばく」の 長澤 重俊（ナガサワ シゲトシ）代表取締役社長 から大麦の機能について発表がありました。ビール用の大麦が北海道で生産されていることから、「ぜひ、もち麦もオホーツク農家で栽培してほしい、網走市を国産大麦の一大産地にしてほしい」という話もありました。

また、山崎製パンと株式会社はくばくがコラボレーションをして「オホーツク産のもち麦を使用した鮭とゴマのおむすび」が昼食で無料配布されました。

次に北海道網走市から「みんなの健康 元気なあばしり」の実現に向けて」という題目で桐蔭横浜スポーツ大学科学研究科 桜井 智野風（サクライ トモノブ）教授 から網走市の健康づくりの取り組みに関して発表がありました。

桜井教授は、「網走市民健康づくりプランⅢ」の策定に携わっておられ、このプランの具体的な健康づくりの取り組みである、あばしりベジラブル運動、あばしり健康カニチョッ筋体操についてなどの報告がありました。

あばしりベジラブル運動とは、生活習慣病の観点から野菜への関心を高めることを目的に実施している運動で、野菜をデザインしたコースターをベジラブル運動推進協力店に配布し、食事サービスの一環として活用していただいたり、様々な方法で情報提供や周知を実施しています。

あばしり健康カニチョッ筋体操運動は、網走市の特産である「あぶらガニ」をモチーフに筋力アップを図れる体操です。

2日目は、加盟自治体及び企業向けの行政視察があり、呼子トレーニングフィールド、日本体育大学付属高等支援学校を視察しました。

視察先1か所目の呼子トレーニングフィールドは、東京ドーム約9個分（41.4ha）の広大な敷地

にテニスコート、野球場、ソフトボール場などが備えられており、今回は、ラグビーコート7面が設置でき、ラグビーのトップチームやJリーグチームが合宿を行う天然芝フィールドをメインに視察しました。

視察先2か所目は基調講演でお話のあった、日本体育大学附属高等支援学校を訪問しました。

視察後、2日目の大会が始まり、健康都市連合 中村事務局長 から、「持続可能な開発につなげる健康都市の地域活動」と題して、連合の活動について報告がありました。

その後、加盟自治体である千葉県松戸市、愛知県長久手市、北海道網走市の取り組みについての発表が行われました。

千葉県松戸市からは「まつど健康マイレージ」・「健康松戸 21 応援団」について発表がありました。

「まつど健康マイレージ」は健康意識の啓発や健康増進を促し、健康づくりの「きっかけ」「定着」「継続」を図ることを目的として、平成28年度7月から始まった取り組みです。健康診断や各種健（検）診、健康に関するイベントなどへの参加する他、スポーツジム・フィットネスクラブの利用でマイル（ポイント）をためることができます。ポイントをためて応募すると抽選で特典が当たります。

「健康松戸 21 応援団」は、平成28年3月に本郷谷市長を団長として創設され、市民の健康づくりを応援する企業や団体で構成されており、平成29年5月末現在で122の団体が入団しています。

具体的な活動は、医療機関では健康診査やがん検診の実施、企業では、職場内完全分煙の実施、飲食店ではメニューに栄養成分の表示を実施しています。また、マイレージの特典にも協力をしています。

愛知県長久手市から「市民主体で実現する健康づくり」というテーマで、市の取り組みについて発表がありました。

長久手市では、「市の様々な計画は市民の生活に関わるものがあるが、市民の認知度が低いという現状がある」ということを課題とし、市民に計画づくりの段階から参加していただくよう取り組みを展開しています。具体的には、月に1度、「毎日コツコツ健康教室」で汗を流した後におしゃべりをし、健康づくりの輪を地域に広げる「YG座談会」や、退職世代による保育園での草取りや落ち葉清掃、行事手伝いといったボランティアをする「保育園おたすけたい」、市民活動をすることでポイントが貯まり、貯まったポイントを図書カードやクオカードと交換できる「地域スマイルポイント」を行っています。

北海道網走市からは、「あばしり健康マイレージ」・「地域協働の介護予防」について発表がありました。「あばしり健康マイレージ」は、市民が自分の健康状態を把握し、自分に合った健康づくりに取り組んでもらうことを目的に、平成28年度から開始されました。

特定健診やがん検診、健康に関する講演会などに参加するとポイントがもらえ、既定のポイントに達すると網走ベジラブル運動の一環として地元野菜がもらえる制度です。

野菜の選定は農協に委託することで、事務費の削減をしています。平成 29 年度からは、継続して利用していただけるように、前年度ためたポイントのなかから、最大 4 ポイントまでを繰り越せるようにしています。

大会開催中はオホーツク文化ホールのエントランスホール内において、加盟自治体や企業の取り組みを紹介するパネル展示や、大会協賛企業の紹介ブースが設けられました。

加盟自治体からは全部で 22 の自治体取り組みを紹介しており、今年度は市川市も取り組みを紹介いたしました。また、網走市の特産物を販売しているブースもあり、大変賑わっていました。

【座長】

質問はありますか。(質問なし)

それでは、以上で議事を終了します。

【岩井保健医療課長】

藤澤先生におかれましては、座長をお務めいただきありがとうございました。

最後に、事務局より事務連絡をいたします。

【事務局】

貴重な意見をありがとうございました。

皆さんから頂いた意見は健康いちかわ 21 庁内プロジェクト会議にフィードバックをし、計画の推進を図り、市民の皆さんの健康づくりが進んでいくよう取り組んでいきたいと思えます。

この協議会は今年度、本日の他、あと 1 回開催します。開催時期は 2 月頃を予定しています。

【岩井保健医療課長】

以上をもちまして、本日の予定は終了しましたので、「平成 29 年度 第 1 回 市川市健康都市推進協議会」は、これもちまして終了します。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。